

心房細動と脳梗塞(心原性脳塞栓症) —超急性期治療の最新事情—

川口市立医療センター
脳神経外科 加納 利和



脳卒中診療は、血行再建治療により著しく進歩しました。心原性脳塞栓症という病気を、聞いたことがあるでしょうか。心房細動というタイプの不整脈によって心臓内に血栓(血の塊)が生じ、脳血管に流れて詰まってしまうものです。かつては死亡率が30~40%もあり、自立した生活のできる人はわずか20%程度しかいませんでした。しかし、脳血管内治療の進歩により、脳血管に詰まった血栓を回収して再開通させ、機能回復を図る血行再建治療が確立しました。当センターの昨年の診療実績では、この治療を行った患者の死亡率はわずか3%、自立した生活ができていない人は52%もありました。

しかし新しい治療法が出てきたといっても完璧なものではありません。この治療は、発症から早期の限られた時間に施行するからこそ意義のあるものであり、時間が経って脳細胞が死滅すると有効性が激減してしまいます。病気の基本的な性質として、死に至る可能性のあるものなのが変わりませんから、当たり前のことではありますが、病気にならないのが一番です。

心房細動は、60歳代では100人中1人、80歳以上では100人中3人の割合で患者がいるといわれていて、決してまれな病気ではありません。心房細動が起こる原因としてさまざまな要因が指摘されています。心不全や弁膜症などの心疾患以外にも、高血圧や糖尿病などの生活習慣病、喫煙や飲酒といった生活習慣も、心房細動発症の危険因子とされています。健康で自立した生活を送るために、今一度、生活習慣を見直してみてもいいかもしれません。

インフルエンザを予防しよう！

インフルエンザは、毎年11月下旬~12月上旬頃にはじまり、翌年の1~3月頃に患者数が増加します。インフルエンザにかかると1~3日ほどの潜伏期間の後に、発熱(通常38℃以上の高熱)、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などが突然現われ、咳、鼻水などの症状が続き、約1週間で症状が落ち着きます。インフルエンザにかからないようにするために適切な予防をしましょう。



予防のポイント

流行前のワクチン接種

インフルエンザワクチンは、感染後に発症する可能性を低下させる効果と、発症した場合の重症化防止に有効です。流行の前までにワクチンの接種を終えることが望ましいです。

外出後のうがいと手洗い

うがいと流水・石鹸による手洗いはインフルエンザに限らず感染予防の基本です。忘れずに行いましょう。

適度な湿度の保持

空気が乾燥するとインフルエンザにかかりやすくなりますので、加湿器を使用したり、濡れたタオルを部屋に干したりして適切な湿度(50~60%)を保ちましょう。

十分な休養とバランスの良い食事

身体の抵抗力を高めるために、日頃から十分な休養とバランスの良い食事を取り、規則正しい生活を送ることを心がけましょう。

人混みや繁華街への外出を控える

やむを得ず外出して人混みに入る可能性がある場合は、マスクを着用しましょう。

イベントスケジュール

2日(土)・3日(祝) **11月**
第28回緑と大地の豊年まつり
場 植物取引センター、川口緑化センター

11月17日(日)に開催を予定していた「荒川ふれあいまつり2019」は、台風の影響により中止となりました。

1日(日) **12月**
第38回川口マラソン大会
場 青木町公園総合運動場(スタート・ゴール会場)

6日(金) **→7ページ**
かわぐち光のファンタジー2019点灯式
場 川口駅東口ペDESTリアンデッキ

14日(土)~24日(振)
アイススケート場オープン
場 グリーンセンター アイススケート場

27日(金)~31日(火)
スーパースターフェスタ2019
場 川口オートレース場



オートレースの魅力伝えたい

オートレース

はやつ 早津 康介さん
(青木)

公営競技最速のスピードを誇るオートレース。レーサーの闘志に呼応したエンジン音が鳴り響く川口オートレース場で、6月、川口出身の新星が幼少期に抱いた夢を実現した。

実家から川口オートレース場までは歩いて数分の距離。オートレースファンの祖母に連れられ、よく足を運んだ。「物心つく前から通っていたんじゃないでしょうか。カッコいいなと漠然とした気持ちだったのが、いつの間にか自分もレーサーになりたいと思うようになっていた」と当時を振り返る。幼き少年の目に映った憧れは、高校卒業時には目標が変わっていた。オートレース選手養成所に入るための難関試験に一発合格。

格。ただ、モトクロス、ロードレースなどのバイク競技経験者も多い世界で、オートバは、おろか原付にすら乗ったことがなかった。「養成所入所当初は、競走車の部品名も分からない状態、手先が不器用なことも重なって、特に整備には今でも苦労しています」。養成所卒業後も、師匠である相馬康夫選手をはじめ、所属グループの選手たちから整備技術を学ぶ日々が続く。

デビューから1カ月半後、早速、努力が身を結び1着を勝ちとる。しかし、決して満足することはなく「レース内容にムラがある。心配性で雑念を取り払えないところに原因がある」と自らを分析。弱点を克服するため、現在はメ



ンタルコントロールに重点を置いてレースに臨む。また、信条に掲げる「勇気一瞬、後悔一生!」を胸に、勝負所を嗅ぎ分ける感覚を日々磨く。

「オートレースの魅力である、接近戦・迫力・音を伝え、観客を盛り上げるレースができる選手になりたい」。選手として、また、幼き日に通った観客としての気持ちを入れて力強く語る。地元川口市民の声援、期待を追い風に次なるミッションは、オート最高峰のグレートレースであるSG制覇。グリップに熱き思いを込め、新たな挑戦に向けギアを上げ、走り出す。